

「第3期中期目標・計画の策定に向けた考え方」に関する協議会の主な御意見(確認用)

※令和6年度第1回協議会において、標記に該当すると考えられる協議会委員の皆様の御意見を抜粋するとともに、道において中期目標・計画にどのように反映させて参りたいと考えているか(反映・対応の方向性)をまとめたものです。

なお、確認事項などの御質問等につきましては、割愛させていただいております。

※協議会当日は、中期目標・計画(素案)そのものを見ていただくのではなく、「考え方」などの概要のみを見ていただいて御意見をいただきましたので、いただいた御意見については、下記の表では順不同(おおよそ発言順)で挙げさせていただき、「主な反映・対応の方向(案)」において、なるべく、中期目標・計画のどの部分に反映させていく考えであるかを記載するようしております。

※括弧内は発言された委員のお名前です。

いただいた御意見(概要)	主な反映・対応の方向(案)
<p>【広報・情報発信について】 「北海道樹木万華鏡」は展示に関わったアーティストが SNS で多く発信していたことが目を惹いた。こういった広報の影響がある方に協力を求める方法もあるだろう。(矢野委員)</p>	<p>中期目標・計画(案)では、「広報」において「多様なターゲットに対して、それぞれに効果的なアプローチができる広報活動」と記載し、SNS はその中でも有効な方策の一つであると認識しております。これまでも、展示会のメディア向け内覧会においては SNS 等のインフルエンサーにもご案内しておりますが、ご意見を踏まえ、現在は X のみである SNS の媒体を増やすことや、展示会のテーマ等に影響力のある方々に向けて発信することを検討して参りたいと考えます。</p>
<p>【学校との連携について(学芸員の仕事を伝える取り組み)】 子どもたちに向けて、「学芸員」という、ひとつのことを専門に研究する職業が将来の選択肢にあることを伝える機会があると、学校との連携としても夢がある。(岡田委員)</p>	<p>現在も、博物館を見学される学校団体向けの学芸員による解説(「グループレクチャー」)のテーマの一つに「学芸員の仕事」を設けるほか、高等学校のインターンシップを受け入れる等、ご指摘の趣旨には館としても賛同するところです。従来 of 事業のみならず、学芸員の仕事について伝える機会についての新たな取り組みを検討できるかと考えているところです。</p>
<p>【博物館や学芸員の仕事を伝える取り組みについて】 学芸員から「収蔵庫を見てほしい」という話があった。こうした、内部の働き・仕事を見せるというコンセプトの収蔵庫見学ツアーはあってもよいと思った。(小川副会長)</p>	<p>現在も、上記にありますような学校に向けた取り組みのほかに、特別イベント「バックヤードツアー」にて個人のお客様に向けて、博物館の仕事を紹介するイベントは設けており、ご指摘の趣旨はまことにそのとおりと考えます。今後も、学校団体以外のお客様に向けた、博物館や学芸員の仕事を紹介するイベント・事業についての具体的な取り組みを検討して参ります。</p>

<p>【学校との連携に関わって】</p> <p>昨今は、特に中学・高校で探究型学習が活発。北海道教育委員会でも探究型学習に関わるプロジェクトを主導しているので、道教委と情報共有はできるだろう。たとえば、そのプロジェクトの参加校と博物館が連携して、高校生と一緒に半年～1年程度の探究活動に取り組むなど、様々な連携活動は考えられる。(岡田委員)</p>	<p>学校との連携のあり方に関する近年の動向についてのご助言として受け止めました。道教委との情報共有を図るなど、具体的な取り組みの中で意識して参りたいと考えております。</p>
<p>【バリアフリーの取り組みについて】</p> <p>「バリアフリーの推進」とあるが、「バリアフリー」は一般的にはハードの面の整備を意味するが、近年は、さらにソフト面にも積極的に取り組む意味で「アクセシビリティ」の考え方が大切。例えば、展示室では、段差の解消だけでなく、触れる展示や、文字に頼らない解説などの取り組みを考えてほしい。(小林委員)</p>	<p>これまでの中期目標・計画では「バリアフリー」のみを記載しておりましたが、「バリアフリー」と「アクセシビリティ」を意識的に区別して用いるようにし、第3期中期目標・計画では「アクセシビリティ」をキーワードとし、実際の取り組みにもそれに基づくものを盛り込むようにいたします。</p>
<p>【多様な利用のあり方を踏まえた博物館事業の方向性について】</p> <p>近隣エリアを照準とした事業・活動と、「北海道」「道民」といった広く離れた範囲を対象にした、主にリモートによる事業・活動とは、分けて考えた方がよい。そして北海道は、その広さからバーチャル的な活動が有効なので、デジタル化した資料も活用してほしい。</p> <p>さらに、利用者との距離感としては、①対面でできること、②(対面ではなくても)同じ時間でできること、③時間にとらわれず利用していただけることを分けたうえで、第3期ではどこに重きを置くかを検討してほしい。(小林委員)</p>	<p>北海道の広域性や、利用者の多様なあり方を踏まえ、博物館を直接来訪いただくご利用(右の①に当たるもの)ばかりでなく、これからは②③についても重視していくことが望ましいとのご指摘は、まことにそのとおりと考えます。</p> <p>同時に、「どこに重きを置くか」とのご指摘は、“全てに頑張ります”といったことではなく、位置付けや比重のメリハリを意識する必要をご指摘いただいたものと受けとめております。</p> <p>当館としては、これまでの中心であった①に引き続き重点を置きつつ、第3期では、ここ1～2年の普及行事で試行的に着手した②や、第3期において整備を図ることとしているデジタルアーカイブ等を活かした③の事業について、先ず試行的に着手しながら、当館における望ましいあり方を探り、定着させることを第3期の課題とすることを検討したいと考えております。</p>
<p>【来館者のターゲット設定について】</p> <p>同じ来館者であっても、札幌近郊からの来館者を増やすのか、北海道全体からの来館者を増やすのかといった、対象を設定したうえで、その変化や効果を見えるようにすると評価としてわかりやすいと思う。(小林委員)</p>	<p>来館者の増加を図る、といった目標は、当館でも常に掲げるところですが、ご指摘のとおり、その対象や目的を明確にして取り組むことが重要であると受け止めております。</p> <p>第3期中期目標・計画でも、「利用者調査」を「次の事業目標等に活用する」等を盛り込んでおりますが、具体的な対象設定や効果の検証につながるよう、調査のための調査に陥らない</p>

	<p>ことを意識して参ります。</p>
<p>【デジタル技術を活用した博物館利用の整備について】 長期入院を余儀なくされている子どもや高齢者など、外出できない方に対して、デジタル技術を活用として、展示物や資料の内部や詳細などを見せる取り組みは考えられる。(小川副会長)</p> <p>北大総合博物館を主体として、道内外の博物館と連携して作成したウェブコンテンツ「みんなの博物館」(収蔵庫に眠っている標本をデジタル化して、オンラインで閲覧できるサイト)がある。(小林委員)</p> <p>長期入院などによって博物館に来られない子どもたちも含めて、博物館というのは、知識を楽しむ場・興味の入り口であり、子どもたちの「知りたい気持ち」を満たせる場である。その意味では、社会的課題でもある、情報格差・知識(学歴)格差の解消に寄与できる場のひとつが博物館であると思う。(矢野委員)</p>	<p>ご指摘のとおり、近年のデジタル技術の進捗により博物館利用サービスの提供については、可能性が広がっていると認識しております。</p> <p>今回の協議会では、資料のデジタル化やデジタルアーカイブについて、その必要性・重要性を認めつつ、大切なこととして、「資料をデジタル化してどう活用するのか」ということに関わるとご質問・ご意見、情報提供を多くいただいたと認識しております。</p> <p>第3期中期目標・計画(案)の、「資料の利活用」について、現案では当館ウェブサイト上での公開等を挙げているのみですが、「様々な活用法を検討する」の文言を加え、ご提案のあった方策など具体的な活かし方を検討して参りたいと考えております。</p>
<p>【地域連携・道民参加における「コミュニティ」について】 「コミュニティ」と一口に言っても、様々な種類・レベルがある。北海道博物館の場合は対象が道民になるが、道民にも様々な階層や地域、様々なレベルのコミュニティがあるので、特に「道民参加型博物館」と言ったときに、誰を対象にするのかについて、漠然とでもいいのである程度のビジョンと戦略をもつ必要があるだろう。(佐々木会長)</p>	<p>「道民」にも多様性があるというご指摘は、まことにそのとおりと考えます。</p> <p>第3期中期目標・計画では「道民参加のあり方の再定義」等を盛り込んでおりますが、事業の企画・実施にあたっては、具体的な対象を想定して検討し、取り組むことが重要であると受け止めております。</p>
<p>【館内のガバナンスについて】 これまでの協議会では館内のガバナンスがいつも低い評価だったので、北海道博物館におけるガバナンスをもう一度検討する必要がある。(佐々木会長)</p> <p>ボトルネックやスタックポイントなどのいきづまった状況の原因を議論して、組織として認識し、どのように取り除くかを明確にすることで、少しずつ前に進める仕組みになり、仕事も進めやすくなる。</p> <p>また、中期計画や年次計画などでは、具体的に、何をもって達成したと評価するのか、を共有していくが基本的なことでも大切であり、職員のモチベーションにもつながる。(住吉委員)</p>	<p>ご指摘のとおり、特に第1期中期目標・計画期においては、内部評価・外部評価ともに、ガバナンスについては評価が低く、特に計画・目標が未達成だった際の原因の分析と解消については組織として認識するというガバナンスの問題として、ご指摘いただきました。</p> <p>第3期中期目標・計画(素案)では、「事業別目標」として具体的な目標を設定したり、「評価と利用者調査を活用した管理運営」において「ガバナンスの強化」を新たに立項したりしたところですが、「北海道博物館におけるガバナンスの再検討」の文言を加えるとともに、目標・計画の達成に向けて、より適正なガバナンスを発揮できるよう取り組んで参りたいと考えてお</p>

	ります。
<p>【学芸業務の充実と、事務仕事の効率化について】</p> <p>学芸員の得意分野を掘り下げてほしい。そのために、事務仕事などで簡易的にできるところは効率化すれば、研究意欲も上がると思う。また、職員同士でコミュニケーションを活発に交わすことが大切だと思う。(小川副会長)</p> <p>収蔵資料のデジタル化だけでなく、事務仕事にも DX は活用できるので、うまく活用することで効率的に業務を進め、そのぶん学芸業務の充実にもつなげられると思う。(矢野委員)</p>	<p>いわゆる事務作業の適切・合理的な簡便化・効率化をはかることが、博物館の学芸員の専門業務の充実につながり得ること、その方策としてデジタル技術を活用するというご指摘は、まことにそのとおりと考えます。</p> <p>第3期中期目標・計画でも、「調査研究」として「研究成果の発信」に具体的な目標数値を新たに追加することで、学芸業務・研究業務の充実を意識するようにしているところですが、関連する業務の効率化についても、具体的な取り組みのなかで意識して参ります。</p>
<p>【人材育成における研修について】</p> <p>人材育成には組織力の強化が大事で、外部での研修に参加するだけでは限界があることや、専門のスキルが高い人材でも育成となると戸惑うことなどがあり、人を育てられる組織体系づくりが重要だと感じている。</p> <p>職員の研修としては、専門分野の研修だけではなく、部下の育成方法や組織のあり方などを他業種から学んでいくことも重要だと思う。(村木委員)</p> <p>他館や他分野との交流のなかで、スキルアップすることも大切。職員の資質向上の一環として、地方の小規模な博物館の職員と交換留職をすることで、地域での体験や発見などから学べることは多くあると思う。(矢野委員)</p>	<p>第3期中期目標・計画(素案)の「職員の人材育成機能の強化」では、職員の研修としては博物館学系などの専門分野の研修を挙げているのみですが、組織人としての側面を育成するための研修・スキルアップにつきましても文言として加えるほか、人材育成を組織の問題として意識するとともに、ご提案のあった方策など具体的な活かし方を検討して参りたいと考えております。</p>
<p>【イベントと展示の有機的な取り組みについて】</p> <p>「地域との信頼関係」としては、函館市電が車内アナウンスを市民に参加して作ってもらったように、ワークショップの参加者に作ってもらったものを、そのまま博物館事業や展示に活かしていくという方法もある。(矢野委員)</p>	<p>情報提供としていただいたお話と受け止めておりますので、中期目標・計画の文言には直接には記載ませんが、道民参加による展示づくりなどの形で、具体的な事業の中で活かせるよう、意識して参りたいと考えております。</p>
<p>【民間を含む、他分野と連携した取り組みについて】</p> <p>博物館の知見や資料を活かした他分野との連携・関係構築も考えていけるだろう。(たとえば、医療分野などに関係して、身体の仕組みの理解に、標本資料を活用するなど)(矢野委員)</p> <p>植物の化石でブローチなどを作って販売している事例を聞き、博物館が民間企業と一緒にできる取り組みをする可能性があるように思えた。(小川副会長)</p>	<p>第3期中期目標・計画(案)の「地域との協働と活性化への貢献」のうち「地域連携の強化」について、現案では「地域連携を促進する」を挙げているのみですが、「民間を含む、他分野・他業種と連携」の文言を加え、ご提案のあった方策など具体的な活かし方を検討して参りたいと考えております。</p>

<p>【職員の資質向上につながる目標設定について】</p> <p>アメリカの国立公園におけるガイド(インタープリター)には、インタプリターとして必要な資質のガイドラインがあり、それは職員にとっての目標にもなっている。</p> <p>同じように、たとえば「諮問の4つのポイント」にあわせて「職員の目標となる資質」を策定するなどして、共通の目標を明確にすることは、運営基盤強化にもつながると思う。(岡田委員)</p>	<p>有益な情報のご提供と受け止めております。第3期中期目標・計画の文言には直接には記載しませんが、職員の資質向上のためのご助言として、ご提案にあった方策など具体的な活かし方を検討して参りたいと考えております。</p>
--	---